四日市版コミュニティスクール報告書（令和４年度総括）

四日市市立日永小学校

校長　川　本　一　也

１　コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

①　地域・保護者とともに協働できる学校づくりを行うために、さまざまな立場や視点から学校運営や学校教育活動への協働・参画・支援等のあり方についての意見や考え等を交流することを通して、子どもを支える学校づくりを推進します。

②　学校づくりビジョンにもとづいた学校評価のあり方について、検討・協議を重ね、保護者や地域の方々の思いや願いがより反映された学校づくりを推進します。

③　学習支援ボランティアやゲストティーチャー等、さまざまな教育活動に保護者や地域の方々等との協働活動を取り入れていくことで、「地域とともにつくる学校」を推進します。

２　コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

○　地域の方をゲストティーチャーに招いて一緒に活動し、子どもたちとのかかわりやつながりを広げられるように取り組んでいます。

＜地域や人との出会い・発見からの学び＞

【４年　総合的な学習『日永つんつくおどり』】

「日永つんつくおどり保存会」の皆さんを招いて、「つんつくおどり」について学びました。つんつくおどりの歴史やいわれなどについて教わりました。続いて、昔から伝わる３つの踊りのうちの２つを、振りを教わりながら踊りました。子どもたちは、今まで大事に守られてきた伝承文化も、これからもみんなで伝えていかないと消えてなくなってしまうことに改めて気づくとともに、地域に伝わる文化を守り、先の世代にも永く伝えていくためにできる活動を続けているという、地域の文化や歴史を思う気持ちを感じ取ることができたようです。

【４年　総合的な学習『見守りボランティア』】

毎日「見守りボランティア」として登下校指導をされている方から、組織の成り立ちや活動のねらい、登下校の様子を見ていて思うこと心配なことなどを聴き、その後、子どもたちが質問しました。入学からこれまでお世話になっている方から、日々見守られていることを改めて感じられる学習の場となりました。

【読書支援サークル『☆マジョリカ☆』による読み聞かせ】

本校保護者らで組織された、読書支援サークル『☆マジョリカ☆』が読み聞かせを行っています。木曜日

の 20 分休みに視聴覚室で読み聞かせ会が開かれ、低学年を中心に毎回 20～30 人の子どもたちが読み聞かせを楽しんでいます。また、定期的に学年ごとに時間が割り振られ、朝学習の時間には、各学級ごとに読み聞かせが行われています。

＜近隣の学校・園との交流＞
【６年　総合的な学習『ものづくり体験学習』】
　四日市工業高校の協力を得て、高校の実習室を使って「ものづくり体験」に取り組みを計画しました。キーホルダーづくり、七宝焼き、ろくろ体験、科学実験等が、四日市工業高校の教員と生徒の指導のもと実施する予定でいたが、学級閉鎖の関係で中止になりました。しかし、準備していただいてあったものを四日市工業高校の皆さんが仕上げていただき、プレゼントとして受け取りました。一緒に活動することはできませんでしたが、プレゼントのお礼の手紙を書き感謝の気持ちを伝えました。

◇運営協議会会議運営の工夫◇
　子どもたちの様子を知っていただくため、授業や行事の参観をしていただく機会を設けてきました。今年度は、予定していた５回すべてを開催することができ、授業参観と協議を行うことができました。毎回、集合することで最新の児童・学校・地域の様子や課題をタイムリーに共有することができました。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

　本校の課題を改善するため、実際に学校での子どもたちの様子を見ていただきました。また、本校の子どもたちの現状が示された「全国学力・学習状況調査」や「新体力テスト」さらには「児童・保護者・教職員アンケート」の結果分析をその都度、テーマとして運営協議会の中で委員の皆さんから意見をうかがってきました。
　教職員とは違った視点からいただいた学習環境や教育内容に関するご意見や日常の児童の登下校の様子をお伝えいただくことができました。ご示唆いただいたことや児童の情報や実態を管理職から職員会議や校内研修会において発信し、改善に努めてきました。
　その結果、以下のような効果がみられます。
　①落ち着いた雰囲気の中で学習している子どもが多い。また、学習課題や板書の工夫、ＩＣＴ機器の積極的な活用が図られている。
　②学校評価に対し、少数意見にも目を向けているところがよい。肯定的な意見や多数を占めている考えだけでなく、教育活動を多面的に考えていくことは大切である。
　③高学年がいい手本となり、低学年にメッセージを送れるような場を設けようとしている。上級生が下級生のめんどうをみようとする気持ちが醸成されている。進んで挨拶ができる子に向けた今後の課題やコロナ禍でのマスク着用・子ども同士が距離をとるといった学習形態から今後どのように学び合う子どもたちの姿に戻していくことの大切さを、学校と地域が共有できました。

　運営協議会委員をはじめ、地域の方々に学校教育活動へ関わっていただくことで、教職員も子どもたちも多くの刺激を受け、意欲的に取り組もうとする姿が見受けられました。このことが本校の学校運営に関して好循環を生んでいるように感じます。

３　今後に向けて

　各学年において、生活科や総合的な学習の時間を中心に、豊富な知識や技術を持つ保護者、地域の方々に関わっていただきながら学習内容の充実を図っています。運営協議会の中で意見をいただき、取組内容を整理して調整を行うとともに、新たな人材の発掘や拡充をしていきたいと考

えています。

　また、地域・家庭・学校が一体となり子どもたちと向き合うことで、基本的生活習慣の定着や安全確保の意識を高めることにつながると考えています。今年度も、保護者や地域の方とのつながりは深く、さまざまな活動にご支援・ご協力をいただくことができました。運営組織の仕組みを整える過程の中で、学校と地域・家庭が協働し、子どもを見守り、育てようとする意識が高まればと考えます。

　今後も「地域とともにある学校」として、地域の特色や教育力を可能な限り活用し、子どもたちの将来に生きる力を育んでいきたいと思います。